

# simc News Letter

Sendai International Music Competition

2022年5月31日号

## 仙台国際音楽コンクールニュースレター

第8回仙台国際音楽コンクール 【開催日程】ヴァイオリン部門 2022.5.21(土)～6.5(日) ピアノ部門 2022.6.11(土)～2022.6.26(日)

### 第8回仙台国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門全体レポート

セミファイナル 第3日目 2022年5月29日(日)

須永 誠(フリーライター)



セミファイナル3日目の5月29日は、前日に引き続き午後2時に審査が始まった。最終日を迎え、客席の熱気はさらに高まったようだ。出場者が力を出し切れるよう、聴衆が温かく支えていた。市民と共に歩んできたこのコンクールならではのアットホームな雰囲気、日増しに強まってきたように感じる。

この日の仙台市は最高気温29・6度と真夏並みの暑さ。前日を6度近く、平年を7・8度も上回った。会場の日立システムズホール仙台では冷水器が新型コロナウイルスの感染症対策で使用できない。マイ水筒を持参し、水分補給する人もいた。出場者も体調管理に一層気を配ったことだろう。

最終日は3カ国の4人が登場した。協奏曲はメンデルスゾーンが3人、ドヴォルザークが1人。初日、2日目以上に個性を前面に出した演奏が多かったように思う。自分はどんな表現を目指し、何を伝えたいのか。研究を重ねた成果を大胆に問い、小気味よい。

完成されたソリストに対して、音楽ファンはついオーケストラとの丁々発止のせめぎ合いを期待してしまう。コンクールでそんな場面はまれだが、4人ともオーケストラと共に信じる音楽を作りたいとの強い意欲が感じられた。聴衆もコンクールのだいたいご味を堪能したに違いない。「英雄の生涯」をコンサートマスターとして演奏する課題でも、高度なレベルでオーケストラとコミュニケーションを図る人がいた。

審査の結果発表は午後6時45分から同じステージで行われ、ファイナルに進む6人が明らかになった。日本から3人、ロシア、韓国、中国が各1人で、年齢は17～27歳。ファイナルではモーツァルトの協奏曲1曲とロマン派から近代にかけての協奏曲1曲で、広上淳一指揮の仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演する。ブラームス、サン＝サーンスの第3番、シベリウス、バルトークの第2番、プロコフィエフの第2番、ショスタコーヴィチの第1番一。多彩な曲目を見るだけで、ファイナルが待ち遠しくなる。

今回特筆したいのは、出場者が個別に審査委員の話を聞く「フィードバック・セッション」が、セミファイナルでは9年ぶりに行われたことだ。ファイナルに進めなかった6人全員が参加。予定の1時間を過ぎて、熱心に耳を傾け続ける人もいたという。予選、ファイナルと比べて、セミファイナルでは審査委員と接触する機会が少なかった。審査後のきめ細かいフォローは、コンクールの価値を一段と高める。出場者にとって、今後どんな方向を目指すべきかアドバイスをもらえることの意義は計り知れない。

ヴァイオリン部門のファイナルは、出場者や関係者、市民のさまざまな思いを乗せて、6月2～4日の3日間にわたって行われる。

\*評論家山田治生さんによる出場者個人々の演奏レポートとあわせてお楽しみください。

(裏面へつづく→)



お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: https://simc.jp

## 第8回仙台国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門全体レポート

セミファイナル 総括 2022年5月27日(金)～29日(日)

須永 誠(フリーライター)

第8回仙台国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門のセミファイナルは、2022年5月27～29日の3日間にわたり行われた。11カ国37人が出場した予選を通過した5カ国12人が、ファイナルリスト(6人)の座を目指した。

課題曲はメンデルスゾーンの「ヴァイオリン協奏曲 ホ短調」とドヴォルザーク「ヴァイオリン協奏曲」のどちらか1曲と、コンサートマスターとして演奏するリヒャルト・シュトラウスの交響詩「英雄の生涯」の指定箇所。広上淳一指揮の仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演した。

新型コロナウイルス感染症の影響で2月まで開催自体が危ぶまれたが、3月中旬開催が決定。各地のコンクールの中止・延期が相次ぐ中、多くの若手演奏家が仙台国際を選んだ。セミファイナルに進んだ12人は高度な技術を備えていたのはもちろん、自分が表現すべき音楽を自信を持って提示し、聴衆に感銘を与えた。協奏曲中心のコンクールであることをよく理解し、オーケストラとのコミュニケーションにも気を配っていたのが印象に残る。コンサートマスター審査も、出場者が課題と真摯に向き合い、自分なりの回答を示した。このコンクールの特色として、すっかり定着したように思う。

コンクールを支えてきた市民ボランティアや聴衆の温かい対応、反応も際立っていた。コロナ禍の終息は見通せず、さらにウクライナ危機の影響で制約がある中、無事に運営できている背景には市民の力添えもある。世界各国の非難が強まる中でロシアから参加し、セミファイナルに進んだ男性を大きな拍手で鼓舞し、力を発揮できるようサポートした。演奏中に弦が切れてしまい戸惑う女性が、弦を張り替えて笑顔で演奏を再開できたのも、指揮者やコンサートマスターの配慮に加え、聴衆の支えが大きかった。主役である出場者が存分に力を発揮できているのを見ると、8回目を迎えた歴史の重みを感じる。

出場者に対し、今回も聴衆から多くの応援メッセージが寄せられている。海外からの出場者には、出場者サポートボランティアが翻訳した上で手渡す。英語、中国語、韓国語などに堪能なボランティアが待機している。ホームステイは中止になったものの、制約がある中、市民ボランティアが工夫を凝らして活動していることを、ぜひ多くの人に知ってほしい。

最後に、連日3時間を超す演奏をこなした、広上淳一指揮の仙台フィルハーモニー管弦楽団の健闘に敬意を表したい。同じ曲の組み合わせを4回繰り返した日もあるが、少しも緊張感を欠くことなく、高いレベルで演奏を続けた。そもそも仙台フィルが存在しなければ、このコンクールが実現することはなかった。この先まだ長い道のりだが、最後まで出場者を支え続けてほしい。

コンクールレポートは、予選から連日公式サイトでも配信しています。

コンクールってどうやって聴いたらいいの？どんな風に人は聴いているの？そもそもこのコンクールはどんなふうにして成り立っているの？昨日の演奏を聞き逃してしまっただけでなく、観客席やライブストリーミングでお楽しみの方にもわかりやすく、音楽評論家や音楽関係者の方たちに、コンクールをレポートして頂いています。コンクールニュースレターは、ホームページで演奏日の翌日以降に更新していますのでぜひあわせて、ご覧ください。



♪コンクールの演奏をYouTubeでお楽しみいただけます。

第8回仙台国際音楽コンクールでは、両部門の予選から表彰式、ガラコンサートまでのライブ配信を4K60pで行っています。また演奏日の翌日から9月30日(金)まで期間限定でオンデマンド配信も行いますので、ぜひご視聴ください。

第8回仙台国際音楽コンクール公式サイト

[https://simc.jp/8th\\_competition/](https://simc.jp/8th_competition/)

Facebook :@SendaiInternationalMusicCompetition

twitter :@sendai\_simc

